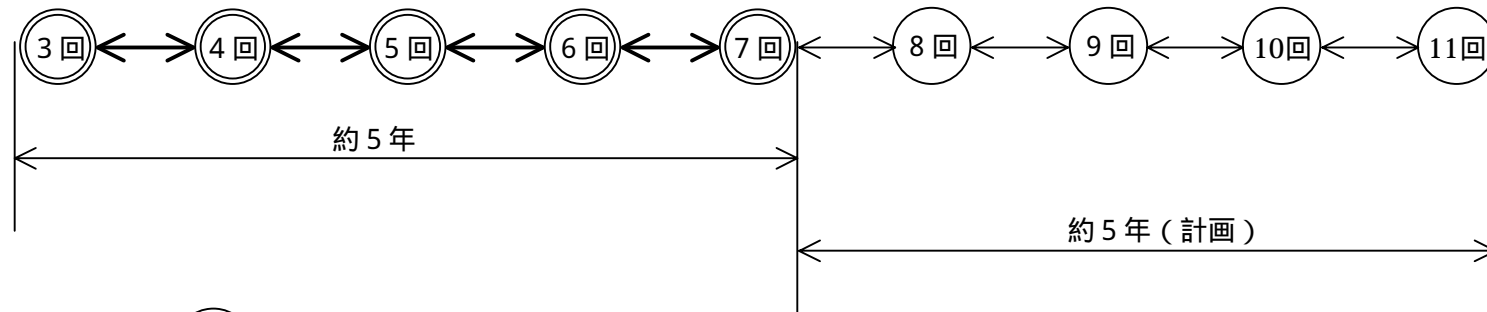


表2 原子炉再循環系配管等の点検計画(14/15)

点検部位*1	SUS316L系材の総継手数(取替後)	応力腐食割れ対策箇所数	点検箇所数*2(8~11回)	点検実績(箇所数)				点検計画(箇所数)*4				備考	
				3回 H9.9~ H9.12	4回 H11.1~ H11.3	5回 H12.4~ H12.6	6回 H13.7~ H13.12	7回*3 H15.1~	8回 H15 年度	9回 H17 年度	10回 H18 年度		11回 H19 年度
原子炉再循環出口管台(N1)とセ-フィンドの溶接部	2	0	2				2				2		
原子炉再循環入口管台(N2)とセ-フィンドの溶接部	10	0	10		2		2	6	4		2	4	
(母管)	30	11	19	0	0	2	3	27	6	4	2	7	7回に点検後、指示I-1-があった箇所を取替 取替前32箇所 一部取替後30箇所(取替時に11箇所についてHSW ⁵ を実施)
原子炉再循環系配管溶接部(呼び径100A以上) (ハダ-管)	12	0	12	0	4	0	0	8	4	4	2	2	
(ライザ-管)	20	0	20	0	0	0	0	20	0	7	8	5	
残留熱除去系配管溶接部(呼び径100A以上)	11	0	11	0	0	0	0	11	0	4	4	3	
原子炉冷却材浄化系配管溶接部(呼び径100A以上)	3	0	3	1	0	0	0	2	1	1	1	0	
ジェットポンプ計装管台とシールドの溶接部	2	0	2		1			1	1			1	注4
合計	90	11	79	1	7	2	7	75	16	20	21	22	注5

*1: SUS316L材を用いて溶接が行われた原子炉冷却材圧力バウンダリを構成する配管類のうち、日本電気協会規格「軽水型原子力発電所用機器の供用期間中検査」(JEAC4205-2000)において体積検査(超音波探傷試験)を要求されているもの。
 *2: 取替時に有効な応力腐食割れ対策が施されている部位を除いた、現有配管(取替後)の指示文書に基づく点検対象継手数
 *3: 今停止中に点検実施済。一部取替を実施。
 *4: 各定期検査の時期及び点検箇所数については今後変更もありうる。
 *5: 応力腐食割れ対策(水冷溶接)



○ : 定期検査回数 (は実績を示す)

↔ : 運転期間

注1: 点検実績は終了した定期検査での「点検実績」としてまとめている

注2: 第7回定期検査は終了していないため「点検計画」としてまとめている

注3: 再循環系配管の範囲を示している

注4: 至近5年間での再循環系配管点検範囲(全数78)を示している

注5: 今回の第7回定期検査での再循環系配管点検範囲68(27+8+20+11+2)を示している

注6: 「点検箇所数(8~11回)」の「合計」79は8回~11回の点検計画の合計(16+20+21+22=79)と一致する